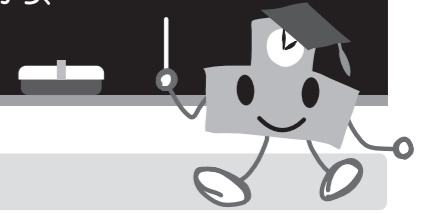


中学校の事例 清田区 平岡中学校

「CO₂計算機」を使った環境学習。自分たちの生活の環境負荷を具体的にとらえる学習。

企業より寄贈された「CO₂計算機」を使い、普段の生活から出るCO₂排出量を数字で比較。それを吸収するために必要な木の本数も出ることから、自らの生活を見直すきっかけになる取組。

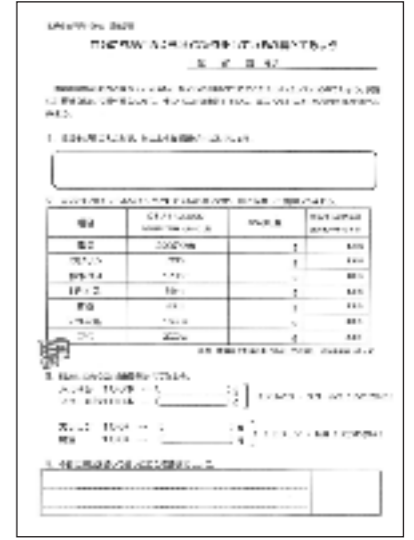


内容 自分たちの選択によって環境負荷が変わる

本校では、社会科や道徳の時間に、環境に配慮する活動を行っている企業より寄贈された「CO₂計算機」を使った環境学習を実施している。「CO₂計算機」とは電卓のような機械で、電気・都市ガス・LPガス・水道・アルミ缶・ペットボトル・ごみなどの項目ボタンを押し、数量を入力するとCO₂排出量を簡単に表示。同時にそのCO₂を吸収するのに必要な杉の木(成木)の本数も表示されることから、自分たちの生活の環境負荷を具体的にとらえることができる。

気や水道の使用で排出されるCO₂量を計算。日本人一人当たりの電気の年間使用量を打ち込むと736kgのCO₂が排出されるという表示に「日本国民全員だと大変な量になる」などと驚きの声が続々と挙がった。

また、アルミ缶とスチール缶、ガソリンと軽油など、似たもののCO₂排出量を比べることで、普段の生活でも自分たちの選択によって環境負荷の大きさが変わっていくことを学んだ。



ワークシート

この環境学習では、まず、世界ではどのような環境問題が起こっているのかについて生徒たちに考えさせ、「温暖化」というキーワードを引き出した。次に、ワークシートを配布し、「温暖化が起こること、どのような問題が生じるか」という設問に対し、まず、一人一人が考えたのち、班に分かれ、意見交換を行い発表した。

次に、温暖化の原因の一つとされる、CO₂の排出量削減について考えるため「CO₂計算機」を使って、電

今後 地球環境を守るために自分は何ができるのかを考える

このように、普段の生活でどのくらいCO₂を出しているのか、また、その吸収に必要な木の本数は何本なのかをしっかりと認識することで、環境について考える

きっかけとなった。生徒たちが、地球環境を守るために自分は何ができるのかを自ら考え、行動していくことができるよう今後も指導していきたい。

広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校からメッセージ

本校では、全校生徒で夏休み、冬休み前に札幌市環境局のエコライフレポートに取り組んでいます。夏休み前は社会科、冬休み前は技術・家庭科の時間に、自分の取組むエコ行動の項目に印をつけて提出。自分の生活を見つめ直し、長期休暇中の生活に生かしています。平成22年度の夏休みにエコライフレポートに取り組んだ結果、50,118kgのCO₂削減となりました。「CO₂計算機」を使った環境学習と合わせて、日常生活を見直す取組となっています。

今後の活動内容として「札幌市は実際にどんな具体的な計画を進めているのか」などを札幌市や市長のホームページで調べ、身近な人たちはどれだけ知っているか新しいアイデアはないかなどを自分たちで考えている。

掲示板カード作成・回覧板・ビデオ放送番組作りなど行い、その計画を身近な児童、家族、地域へ知らせたいこうと活動している。



エコに関する掲示板

普遍的な部分と変化していく部分、大きな枠の方向性がどこへ向かっているのか、エコや節約だけでいいのかなど、考えなければならないことが山積みだが、子どもに伝えるためにはきちんとした方向性をもって指導に当たってきたい。



省エネナビコーナー

5年生

地球救助隊!食で救え
(①地球は大丈夫?②フードリサイクル)
(③エコクッキング)
地球救助隊!省エネ作戦
※キッズISOに取り組み、入門編から初級編へ地球救助隊!地球の寿命
※資源エネルギーの寿命などについて学ぶ

6年生

エンジョイ!札幌エコライフ
※地域や札幌市へ発信

今後 活動に変化を加え 新たな意欲へ

本校ではこれまでの取組から、子供たちの環境への関心が高まり、理解が深まったと考えている。キッズISOプログラムや各種コンクールの取組、児童の活動(月ごとの電気、ガス、水道の掲示物、校内用ポスター、エコプログラムの実践、クリーン活動)などを今後も継続していきたい。継続的な活動はマンネリ化しがちだが、発展させる、変化を加えることで関心が集まり、新たな意欲が高まると考えている。そしてこれにより、環境に関する取組が各家庭へ広がり、地域へも波及していくことを望んでいる。

環境教育は基本となるプログラムを活用し、その土地に合った実験などから取組んでいくことが望ましいと考えている。

広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校からメッセージ

キッズISO国際会議の時に、5年生全員が描いた環境のポスター60枚を、クウェートに贈りました。国際芸術技術協力機構の理事長が現地へ行き、クウェート国教育省の次官補に直接ポスターを渡してくれました。次官補は大変感動していたとのこと、その後、クウェートの多くの小学校に届けられたそうです。子供たちは「自分たちの活動が世界に広まった!!」と実感することができたようです。